

大音生活にもっと“キラリ”を♪

MUSE

1 Vol.252
January
2020

特集

学生オペラを 観に行こう！

ジュネーブ
国際音楽コンクール
作曲部門で優勝の快挙！

高木日向子さん

作曲 助手
大阪音楽大学大学院作曲研究室
2012年度修了

MUSE January 2020 Vol.252

学生オペラを観に行こう！

学校法人大阪音楽大学出版部 MUSE | vol.252 | 2020年1月15日発行 | <https://daion.ac.jp>
発行 学校法人大阪音楽大学 〒565-0855 豊中市田代町1-1-8 TEL:06-6334-2204 FAX:06-6334-2141
制作 編集 広瀬 雅 muse@daion.ac.jp 制作協力 印刷 (株)高木デザイン

大阪音楽大学

CONCERT SCHEDULE

演奏会やオペラなど、大音関連のイベント。

大阪音楽大学主催公演

大阪音楽大学コンサート・センター
TEL:06-6334-2242

開催日時・出演者が変更になる
可能性があります

大阪音楽大学・
大阪音楽大学短期大学部
第28回 電子オルガン・コンサート
1/19(日) 15:00～ ●電子オルガン専攻・
コース生 他 ●OH ●1000円(全自由席)

大阪音楽大学
2019年度ピアノ演奏家特別コース
修了演奏会
1/23(木) 16:00～ ●ピアノ演奏家特別
コース4年生 ●OH ●無料(要整理券)

大阪音楽大学短期大学部
ポピュラー・コース・コンサート
2/4(火) 18:00～ ●ポピュラー・コース
生 他 ●サンケイホール・ブリーゼ
●1000円(全自由席)

大阪音楽大学・
大阪音楽大学短期大学部
ジャズ・コンサート
2/13(木) 18:30～ ●ジャズ専攻・コース
生 他 ●常翔ホール ●1000円(全自由席)

第31回 大阪音楽大学学生オペラ
W.A.モーツァルト「フィガロの結婚」
(全4幕・原語(イタリア語)上演・字幕付)
2/15(土)、2/16(日) 両日14:00～ ●
指揮:森香織、演出:井原広樹、合唱:
大阪音楽大学合唱団、管弦楽:
大阪音楽大学管弦楽団 ●OH ●一
般2000円、シルバー/小・中・高
校生1000円(全指定席)

大阪音楽大学短期大学部
ミュージカル・コース
DAIONミュージカル第9回公演
2/23(日)第1部13:00～、第2部17:30
～、2/24(月)第1部13:00～、第2
部17:30～、2/25(火)14:00～ ●ミュー
ジカル・コース生 他 ●OH ●一
般2000円(一般当日+500円)、小・
中・高校生1000円(全指定席)

2019年度 大阪音楽大学・
大阪音楽大学短期大学部

ジュニア吹奏楽団演奏会

2/29(日) 18:00～ ●指揮:小野川昭
博、吹奏楽:大阪音楽大学・大阪
音楽大学短期大学部ジュニア吹奏
楽団 ●OH ●1000円(全自由席)

大阪音楽大学・
大阪音楽大学短期大学部
第17回 ザ・ストリング・コンサート
3/2(月) 19:00～ ●弦楽器専攻・コース
生 ●常翔ホール ●1000円(全自由席)

大阪音楽大学
第51回 吹奏楽演奏会
3/8(日) 14:00～ ●指揮:ヤン・ヴァ
ンデルロースト、吹奏楽:大阪音楽
大学吹奏楽団 ●ザ・シンフォニーホ
ール ●一般3000円、小・中・高校生
1000円(全指定席)

大阪音楽大学短期大学部
2019年度 卒業演奏会
3/14(土) 時間未定 ●2019年度成績
優秀者 ●OH ●無料(要整理券)

大阪音楽大学
2019年度 卒業演奏会
3/14(土) 時間未定、3/16(月)、3/17
(火) 両日18:00～ ●2019年度成績優
秀者 ●OH ●無料(要整理券)

上野星矢フルトリサイタル
3/21(日) 14:00～ ●Fl:上野星矢、
Pf:岡田奏 ●OH ●一般3000円、
小・中・高校生1000円(全自由席)

大阪音楽大学後援演奏会

まほろば 21世紀創作歌曲の会
新作歌曲による第15回コンサート
2/9(日) 15:00～ ●声楽:小餅谷哲
男、喜多美幸、坂口さやか、田中勉、
田中友輝子、堀口莉絵、安谷万佑
子、安田旺司、Pf:幸野紀子、園田
文子、高木洋子、田中紀子、松永
昌子、村上ひろみ、安田伸子 ●永
木市市民総合センター(クリエイト
センター)センターホール ●2000円
●komasol@daion.ac.jp(駒井)

伊藤勝ピアノリサイタル
2/13(木) 19:00～ ●兵庫県立芸術文化

センター神戸女学院小ホール ●3000
円 ●090-1146-8057(伊藤勝)

アンサンブルパックス第6回演奏会
2/18(火) 19:00～ ●Vn:赤松由夏、Pf:
藤井快哉、Fl:石橋輝樹、Ob:佛田
明希子、Cl:上田浩子、Hr:小椋順二、
Fg:首藤元 ●豊中市立文化芸術セン
ター 小ホール ●3000円(当日+500
円) ●06-6377-1117(ドルチェ楽器)

増井一友ギターコンサートVol.29
2/26(火) 19:00～ ●西宮市甲東ホ
ール ●1000円 ●unamigo@skyblue.
ocn.ne.jp(増井一友)

大阪音楽大学×ヤマハミュージック
大阪なんば店
ピアノ専門特殊研究3年生による
ジョイントコンサート VOL.26、27
2/27(水)、3/18(水) 両日19:00～ ●
2/27:原田真衣、松本奈々、大川未希
/3/18:境彩希、馬場葵 ●ヤマハ大阪
ビル3Fアルモニーホール ●一般2300
円、会員/学生1800円(当日各+500
円) ●06-6531-8203(ヤマハミュー
ジックリテリング大阪なんば店)

大阪音楽大学×ヤマハミュージック
大阪なんば店
ピアノ演奏家特別コース2年生による
ジョイントコンサート VOL.23、24、25
3/3(火)、3/9(月)、3/13(金) 各日19:00
～ ●3/3:小坂夏鈴、豊田麻由/3/9:
薄木咲良、西野さらら/3/13:井垣
菜々子、中野琢斗 ●ヤマハ大阪ビル
3Fアルモニーホール ●一般2000円、
会員/学生1500円(当日各+500円)
●06-6531-8203(ヤマハミュージ
ックリテリング大阪なんば店)

サクソフォンアンサンブルコンサート
～井上麻子と仲間たち
3/23(月) 19:00～ ●Sax:井上麻子、
井上麻子門下生 ●阿倍野区民セン
ター 小ホール ●1000円(当日+500
円) ●sax.inouemonka@gmail.
com(井上麻子)

片桐仁美 聖田京子 ジョイントリサイタル
3/27(金) 19:00～ ●Alt:片桐仁美、
Pf:聖田京子、Gt:増井一友 ●ザ・
フェニックスホール ●3500円(当日

+500円) ●06-6876-8038(シ
オハマエージェンシー)

ピアノトリオの午後Vol.3
3/28(土) 13:00～ ●Pf:真壁泰江、
Vn:赤松由夏、Vc:後藤敏子 ●西
宮市プレラホール ●一般3000円、
学生2000円 ●vcbinko@yahoo.
co.jp(後藤敏子)

演奏家+作曲家コレレーションシリーズ
佐藤洋嗣コントラバスリサイタル
3/31(火) 19:00～ ●豊中市立文化
芸術センター 多目的室 ●一般2500円、
学生1000円 ●03-6417-0393(日
本現代音楽協会)

四次元三重奏～第12章～
4/9(木) 19:00～ ●Vn:馬淵清香、
Vc:池村佳子、Pf:藤井快哉 ●豊
中市立文化芸術センター小ホ
ール ●一般3000円、学生2000円
●hanaonkikaku@yahoo.co.jp(花
音楽企画)

北野裕司&久保美緒 ピアノデュ
オリサイタル vol.1～1台4手の愉しみ～
4/21(火) 19:00～ ●豊中市立文化
芸術センター小ホール ●一般3000
円、大学生・付属音楽院会員・幸
楽会会員2000円、小・中・高校生
1500円 ●03-6806-7108(一
般社団法人東京国際芸術協会)

幸楽会後援演奏会

LIEDERKREIS vol.4
～ドイツリート愉しみ～
1/18(土) 14:00～ ●Sop:伊野波幸、今
江充子、杉本佳代、Mez:佐々木祐子、
瀬戸口文乃、Bar:浦野裕毅、Pf:川邊
由布子、中村展子、前川裕介、Cl:平
川奈津美 他 監修:川下登 ●日本基督
教団東梅田教会 ●2000円(全自由席)
●noal9914@mac.com(瀬戸口)

富治林直美 遠藤コンサート
～春をうたう～
4/29(水祝) 14:00～ ●Sop:富治林
直美、Pf:常盤好、Fl:中岡信子 ●
青山ホール ●1000円(当日+200円)
●0595-52-1109(青山ホール)

OH:ザ・カレッジ・オペラハウス MH:ミレニアムホール ※必ず主催者発表のものと同照してご確認ください。



第1回 大阪音楽大学ミュージッククリエーション専攻

Music Creation Awards

～卒業作品『完成披露会』2019～

2020年1月30日(木) 15:30開場/16:00開演

次号は2020年4月15日発行予定です。

MUSEの住所・氏名変更の手続きについて▶変更前と変更後の住所や氏名(よみがな)を大学へお知らせください。メール(muse@daion.ac.jp)かFAX(06-6334-2141)で受け付けております。 ※郵便物の転送サービスは期間が終わると配達されなくなります。

右記のSNS配信サービスでも大音情報をチェックできます。

最新情報を配信中!



公式FB @occm_l daion_insta

高木日向子さんが
ジュネーブ国際音楽コンクール(作曲部門)で優勝!



久保洋子

教授

高木日向子

作曲助手

本山秀毅

学長

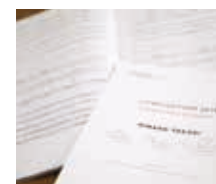
特別鼎談

“自然体”で切り開いた、
世界への扉

昨年11月8日、スイス・ジュネーブで開催された「ジュネーブ国際音楽コンクール」の作曲部門で本学作曲助手の高木日向子さん(2012年度院修)が優勝。80年の歴史を誇る同コンクールにおいて日本人2人目となる快挙に、学内外が歓喜に沸きました。今回は本山秀毅学長と大音在学中からの指導教員である久保洋子教授との鼎談を企画。受賞作品に込めた思いや大音在学中のエピソードなどについてお聞きしました。

若手音楽家の登竜門【ジュネーブ国際音楽コンクール】

30歳以下(作曲部門のみ40歳以下)の音楽家を対象にした若手の登竜門で、1939年から続く歴史あるコンクール。全体で26種目(部門)あり、実施種目は毎年変化する。2019年の作曲部門は高木さんとダニエル・アランゴブラダ氏(コロンビア)の2人が優勝した。



【受賞作品】L'Instant (瞬間)

オーボエソロとアンサンブルのための作品。古代ギリシャの人たちの「感動」を音で現代の聴衆に届けることをテーマに、画家・高島野十郎の作品「蠟燭」から着想を得て作られた。「時間芸術である音楽から高島の絵のような超感覚的な感動をもたらす瞬間を作り出すにはどうすれば良いか。現代の音楽語法を用いて探求することを作品のテーマにしました」(高木さん)

「欲を捨てて書こう」
開き直りが転機に

本山 受賞から約1カ月たちましたが、何か変化はありましたか。
高木 これまで自作曲を発表する機会は自ら作らなければなりませんでしたが、受賞をきっかけにさまざまなお仕事の依頼をいただくようになったことが大きな変化です。その一方で、過去の受賞者の活躍を拝見していると「私も将来的にこのようになれるのだろうか」という不安もあります。

本山 本学を卒業してからさまざまなコンクールに作品を応募してこられたと思いますが、今回の受賞までの道のりはどのようなものだったのでしょうか。
高木 卒業してしばらくは、欲があつたと感じます。周りの先輩や後輩の活躍を見て「私も賞が欲しい」と頑張った時期もありましたが、コンクールでは落選の連続。あるとき、どうせ落ちるなら自分が「面白い」と思える楽譜を書いて出して、気持ちよく落ちよう(笑)と開き直った瞬間がありました。そうして、自分の思うままに書いた作品が日本音楽コンクールの作曲部門で第3位に入賞(2017年)。「このスタイルでいいんだ」と確信が持てた出来事でした。

本山 それは興味深いエピソード

古代ギリシャ人の「感動」を
音で現代に蘇らせる

本山 受賞作は画家・高島野十郎氏の作品「蠟燭」から着想を得たそうですね。
高木 作曲する上での興味として、古代ギリシャの人たちが「音」に対してどのような感動を覚えていたのかということがありました。「蠟燭」に描かれている炎は、現代人における物質としての火ではな

く、古代ギリシャの人々が感じたであろう火に対する「神秘性」を私たちに呼び起こさせるもののように感じました。その感動を音で表して、それに近い感動を聴衆に感じてもらうにはどうすればいいかと考え、作った作品です。
本山 ギリシャ時代の音を再現するためのアプローチとして、音ではなく火を通して「思い」を表現しようとしたことは新鮮ですね。
久保 作曲家はまず自分の中でイメージを膨らますことから始めます。そしてそれをどのようなテクニックで表現するかということを考えています。日本人が元々持っているスピリットと後から入ってきた西洋音楽のそれは本質的に異なるものですが、高木さんは自ら持っている感性と、それを西洋の楽器で表すテクニックを上手にミックスできたから高い評価を得られる作品になったのだと思います。
本山 絵画との出会いがきっかけになった受賞。質の良いものにアテナを張っていくことが相乗効果で作品の質を高めていくことにもつながると改めて気づかせていただけたと感じます。

久保 作曲の勉強を始めたのは大音を受験する数月前でした。
高木 そうですね。作曲の勉強を始めたばかりだったので、入学後は基礎の基礎からのスタートでした。現代音楽に対する知識も浅く、初めて聴く曲が多かったので、新しいものが自分の中に入ってくる感覚がうれしかったのを覚えています。
久保 先生の指導は「とにかく書きなさい」というもの。1年生は「変奏曲を100曲作る」とい

ですね。今回受賞した作品もそうしたナチュラルな思いからの曲だったんじゃないかと。
高木 そうですね。審査員の方が好きな作曲家の方が多かったのですが、たとえ落選してもこの方々に楽譜に目を通していただけるだけでも励みになる。そして「まだまだだよ」と言っていただけのことでも今後のモチベーションにつながるのではないかと考えていました。
久保 高木さんの良いところはすごく自然体だということ。私は学生に、どんなに拙い作品であつても「こうしたい」という自らの強い思いを持って楽譜に向かうことを求めています。今回の受賞は、高木さんがさまざまな経験を積んできた中で内面から出てきた思いが評価された結果だ、と非常にうれしく思っています。

けを教えてくださいませんか？
高木 通っていた中学校に毎年「学級歌」を作るという伝統があり、その作曲を担当したことが原体験でした。1年生は2声、2年生は3声、3年生は4声とすごく大変でしたが、私が作った曲をクラスの人たちが大人数で歌ってくれることに大変な感動を覚えしました。高校は県立の音楽科に進学してピアノを学んでいたのですが、3年生になって進路を考えたとときに中学時代の原体験を思い出し、改めて作曲をしつかり勉強したいと思いました。当時の先生に相談したところ、たまたま先生の自宅の4軒隣に住んでおられた久保先生を紹介していただいたことが縁となりました(笑)、大音に入学することになりました。

中学時代の感動が
作曲家としての原点

本山 作曲に興味を持ったきっかけ



大学1年生の時の1枚。オルレアン国際ピアノコンクールに審査員として出席する久保教授に随行。国際的なコンクールの雰囲気を感じることができた経験でした。



” 現代音楽への“扉”を開く 作曲家になりたい。

——高木日向子



” 良い演奏家と活動するチャンス、 最大限に活用してほしい。

——久保洋子



” 音楽界全体が 作曲の価値を 再認識する きっかけになった。

——本山秀毅



高木さんに聞きました！

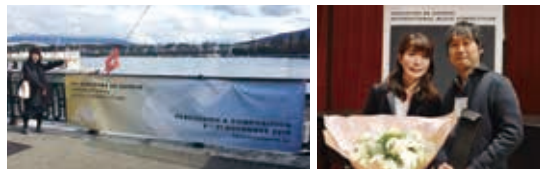
- Q.01▶長所と短所を1つずつ教えてください。
のんびりした性格が長所であり短所です。
- Q.02▶欠かさず続けている日課(習慣)はありますか？
週に1回のフランス語教室。
6年前から通っています。
- Q.03▶愛読書を教えてください。
外山滋比古さんの「思考の整理学」
- Q.04▶ストレス発散、気分転換の方法は？
愛犬モグちゃん(トイプードル)との昼寝
- Q.05▶「実は、私〇〇なんです」
〇〇に入る言葉を教えてください。

頑固

- Q.06▶音楽をやっていて本当に良かったと思う瞬間は？
音楽を通してたくさんの出会いがあること
- Q.07▶音楽家としての一番のライバル
(刺激し合った仲間)を挙げるとすれば？
大音作曲専攻の先輩後輩
- Q.08▶ご自身を楽器に例えると？理由も教えてください。
シンバル。ここぞという時に頑張ります。
- Q.09▶プライベートではどういう音楽をよく聴きますか？
ミュージカル、宝塚歌劇が好きです。
- Q.10▶音楽家にとって一番大事なことは何だと思いますか？
日々幸せに過ごすこと



上：ジュネーブ国際音楽コンクールの表彰式の様子。右から2人目が高木さん。左から2人目が同率1位のダニエル・アラングプラダさん。 左下：レマン湖周辺で見つけたコンクールの宣伝。コンクール関係者だけでなく町全体で盛り上げた雰囲気は、日本ではなかなか感じられないもの。 右下：会場に駆け付けたご主人と。



久保 門下伝統の課題があったのですが、テーマを決めるまでに約3カ月、テーマが決まってもから図書館でワルツなどの舞曲をはじめ、さまざまな楽譜を見て100通りのスタイルを考へなければなりません。最後は変奏のスタイルが尽きてきて盆踊りの曲を作った記憶もあります(笑)。

主催者、演奏者、聴衆 フラットな関係性を日本でも

久保 そうでしたかね(笑)。1年生はだいたい古典派を勉強するのですが、変奏曲という形式であればロマン派まで入れるし、それをだんだん崩していって現代音楽にも入れる。独特な方法ではありますが、こうしたトレーニングを積むことが、自分の引き出しを増やすことにつながり、その後の作曲りに役立つのです。

高木 海外のコンクールで感じるのは主催者、演奏者、聴衆のフラットな関係性です。私たちに比べて神様のような演奏家が雲の上ではなく目の前にいる感覚。日本にはいいホールがたくさんあり、環境は本当に素晴らしいものがあるのですが、そうしたフラットな関係が日本でも再現できないかと感じています。

久保 今回の受賞をきっかけに、良い演奏家と活動を共にする機会が増えると思います。私もピエール・イヴ・アルトールというフルートの大家と何十年も一緒に活動していますが、良い演奏家は作品の魅力をさらに引き出してくれます。高木さんは優勝を機にその切符を手に入れたのですから、チャンスを最大限に生かしてほしいと思います。

高木 そうですね、あまり気負わず自然体で音楽と向き合っていきたいと思っています。私にとっては楽しい現代音楽ですが「難しそう」「とっつきにくい」と思われるのか、残念ながらコアな客層になりがちな部分があります。私の曲や活動が現代音楽への「扉」を開くきっかけになる——そんな作曲家になりたいと思います。

本山 今後のますますのご活躍に期待しています。本日はありがとうございました。



高木さんのインタビュー



受賞作品の演奏

QRコードからジュネーブ国際音楽コンクール公式YouTubeをご覧ください。

独創的なオペラ・シリーズで数々の賞を受賞

オペラハウスでは開館以来、「ディスカバー・オペラ・シリーズ」や「20世紀オペラ・シリーズ」など独創的なオペラ・シリーズを展開。9シリーズ、約70作品を上演し、文化庁芸術祭大賞をはじめとする国内の重要な音楽賞を多数受賞してきました。

ザ・カレッジ・オペラハウスの受賞歴

- 1992** 大阪文化祭賞本賞
H.W.ヘンツェ《若い恋人たちへのエレジー》
(1992年10月17、18日公演)
- 1997** ABC国際音楽賞、大阪舞台芸術賞、
三菱信託音楽賞
篠敏郎《金閣寺》(1997年11月27、29日公演)
- 2000** 第30回モービル音楽賞洋楽部門本賞
オペラハウスのこれまでの活動と成果に対して
- 2002** 大阪文化祭賞、音楽クリティック・クラブ賞
ブゾーニ《トゥーランドット》
(2002年11月15、17日公演)
- 2003** 大阪文化祭賞グランプリ、
音楽クリティック・クラブ賞
松村禎三《沈黙》(2003年11月7、9日公演)
- 2005** 第60回文化庁芸術祭大賞
松村禎三《沈黙》
(2005年10月24、26日公演)
- 2011** 第66回文化庁芸術祭大賞
ブリテン《ねじの回転》
(2011年10月14、16日公演)
- 2013** 第22回三菱UFJ信託音楽賞
ブリテン《ピーター・グライムズ》
(2013年10月12、14日公演)
- 2014** 第69回文化庁芸術祭大賞
ブリテン《カーリユー・リヴァー》
鈴木英明《鬼娘恋首引》
(2014年10月11、13日公演)
- 2015** 第70回文化庁芸術祭優秀賞
ヴェルディ《ファルスタッフ》
(2015年10月30日、11月1日公演)
- 2018** 音楽クリティック・クラブ賞
メノッティ《テレフォン》《泥棒とオールドミス》
(2018年11月2日、4日公演)

2019年の上演作品

第55回オペラ公演 「ディレクターズチョイス」シリーズ 「カプレーティとモンテッキ」

11月1日、3日にザ・カレッジ・オペラハウスで第55回オペラ公演が行われました。今回は、「ディレクターズチョイス」シリーズの第3弾としてベッリーニ作曲の「カプレーティとモンテッキ」を取り上げました。ザ・カレッジ・オペラハウス30年の歴史の中で、ベルカント・オペラは初めての挑戦。新人の林佑子(ジュリエッタ)と矢野勇志(テバルド)をはじめ、橋知加子(ロメオ)、迎暉聡(カペッリオ)、松森治(ロレンツォ)も熱演しました。照明を効果的に使った極めてシンプルな舞台装置では、歌や演技が際立ち、登場人物の感情がしっかりと伝わってきました。また、合唱やバンド、舞台裏スタッフには本学の学生も参加し、プロの現場で貴重な経験を積むことができました。



1989年(平成元年)4月、

日本初のオペラハウスとして誕生した

「ザ・カレッジ・オペラハウス(以後、オペラハウス)」。

開館以来30年の歴史の中で、

文化庁芸術祭大賞を3度受賞するなど、

オペラの本格的な公演拠点として

数々の栄えある賞を受賞してきました。

今回は、そんなオペラハウスと共に歩み

今年31回目を迎える

“学生オペラ”にスポットを当て、

公演に関わる人々や、

オペラの楽しみ方をお伝えします。

※今回の特集のうち、専攻の記載がない学生は声楽専攻生です。

学生オペラを観に行こう！

対談

フィガロ × フィガロ

声楽専攻生、憧れの舞台。 「学生オペラ」にかける思い

2016年度の学生オペラでフィガロ役を務め、現在は新国立劇場オペラ研修所の研修生としてさらなる研鑽を積む湯浅貴斗さん(2018年度院修)と、今年度の学生オペラでフィガロ役を務める芳賀健一さん(大4)が語り合いました。

発表会とは違う重みを
学生オペラに感じました。

学生生活の集大成
「楽しむこと」忘れずに。

2016年度のフィガロ役
湯浅 貴斗
新国立劇場オペラ研修生

新国立劇場オペラ研修所
修了公演「フィガロの結婚」
2月28日(金) 18:00 中劇場
2月29日(土) 14:00 中劇場
3月 1日(日) 14:00 中劇場
湯浅さんは
バルトロ役で出演予定です。

今年度のフィガロ役
芳賀 健一

芳賀 湯浅先輩に会うのは久しぶりですね。今、オペラ研修所ではどのような活動をされているのですか？

湯浅 劇場の稽古場で毎週月曜日から金曜日まで歌やバレエ、日本舞踊のレッスンを受け、語学や演技なども学んでいます。4月の入所以降、6月末のオペラの試演会に出演し、現在は3月に行われる上級生の修了公演に向けて稽古をしています。

芳賀 大音時代との違いはどのあたりに感じますか？

湯浅 本番の数が減ったことかな。その分、自分自身で勉強できることの幅と時間が格段に増えたと感じます。大学生生活って忙しいでしょう？

芳賀 確かに「毎月が本番」というぐらい忙しいですね。

湯浅 でも、研修所の同期生に聞くと「オペラをやったことがない」「原語で演じたことがない」という人が多いんです。学生時代にこれだけ本番の舞台に立たせていただけけるのは大音だけだと思っし、そこで培った技術は強みになる。これは大音を出て改めて感じていることです。

湯浅 本番まであと3カ月。学生

オペラって気持ちが入るよね。

芳賀 年度初めの4月から2月の本番まで、学生オペラⅡ学生生活と言っても過言ではないぐらい学生は必死になって学んでいます。その間、他の本番で経験したことも含めて1年間の集大成を見せる場。やっぱり特別な舞台ですね。

湯浅 オペラハウスで一般のお客さまにも観ていただけなのが学生オペラ。ただの学生の発表会とは違う重みを私も感じていました。

芳賀 今回フィガロを演じるにあたって、3年前の映像も見直しました。先輩はフィガロを演じる上で、どういうことを意識していましたか？

湯浅 普段は寡黙な私とフィガロは性格が正反対(笑)。「どうやってテンションを上げようか」と最初は悩みましたが、フィガロに対する解釈が進んでいくと、ふっとその性格を受け入れられるようになってきました。キャストの中で誰よりも頭の回転が速いキャラクターなので、演じている自分に穴があいたらその瞬間から物語についていけなくなる。フィガロの頭の回転についていくことが難しい部分でもありましたね。

芳賀 私も同じことを意識しています。無理に元気を装った演技

だと、後で見返したときに「何だか変な動きだな」ということになってしまします。他のキャストとの関係性も考えながら、うまく前に見せられる演技を構築しているところですよ。

湯浅 興奮しすぎると悪目立ちしてしまうし、舞台上に一体感がなると、観ている方も違和感があると思います。1年間みんなで共有してきた、筋を振り所に、心を一つにすることが大事だと思います。

湯浅 大音の音楽専攻は男声が少ない分、学年を超えて仲が良く、互いに教え合いながら一緒に成長していくような関係性が特徴だと思っています。人に教えることが自分自身の成長にもつながるということを先輩の立場になってから感じました。芳賀君も1年生の頃から見てきたので、その成長過程を知っているすこくかわいい後輩。本番では悔いが残らないように、楽しんでほしいですね。

芳賀 残り3カ月、できる限りのことをやり、本番は「楽しむこと」を忘れずに臨みたいと思います。今日はありがとうございました。

湯浅 本番の成功を期待しています。ありがとうございます。



今年度のフィガロ役
芳賀 健一



2016年度のフィガロ役
湯浅 貴斗
新国立劇場オペラ研修生

新国立劇場オペラ研修所
修了公演「フィガロの結婚」
2月28日(金) 18:00 中劇場
2月29日(土) 14:00 中劇場
3月 1日(日) 14:00 中劇場
湯浅さんは
バルトロ役で出演予定です。



学生たちの真剣勝負を、
舞台から感じ取ってほしい。



井原広樹 演出家・客員教授

[音楽学部音楽学科1986年度卒業]

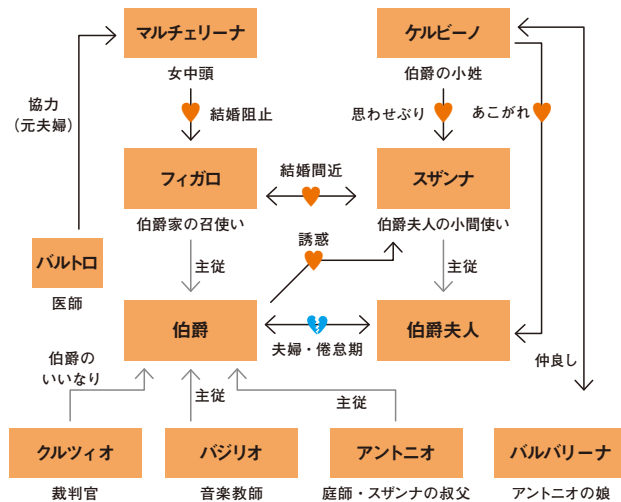
毎年4月から始まる学生オペラの稽古。火曜日に3時間、木曜日に1時間半、学生にとってはハードなスケジュールかもしれませんが、3時間で1コマと考えると年間通しても40コマ弱ぐらいにしかありません。「フィガロの結婚」はプロでも40~50コマは稽古する演目なので、プロより少ない時間で仕上げなければならないということ。学生にはスキ間の時間の重要性を伝え、稽古で指摘されたことを自分たちで消化して修正していくことを求めています。

演出を担当するようになって今回で2回目。学びの成果の舞台として標準的な演出を心掛けていますが、昨年の「ドン・ジョヴァンニ」と今回の「フィガロの結婚」は現代的な洋服や小道具を使っていることが特徴。映像を使った演出と合わせて、大道具だけでは表現しきれない舞台の表情を感じていただければと思います。

学生たちには「学生オペラ」だけど、目指すのは「学生っぽい」オペラじゃない」と言っています。オペラの観客層には「これから伸びそうな歌手は誰か」という視点で舞台を観に来られる方もいらっしゃいます。世界で活躍中の彼らの先輩たちは、学生時代、すでにその片鱗を示していました。プロになってからエンジンをかけようというのでは間に合わないのです。

一つ一つの舞台が「次」へのステップになります。学生たちが見せる真剣勝負。本番では、ぜひそこに注目してほしいです。

関連図



技を研ぎ澄ます濃密な時間 エネルギーが ほとばしる、 白熱の稽古

昨年4月から始まった稽古も本番まで残り約1カ月。
ますます熱がこもるオペラ実習の授業におじゃましました。



2019年度学生オペラの作品は、

フィガロの結婚 [Le nozze di Figaro]

フランスの劇作家ボーマルシェが1778年に書いた風刺的な戯曲をもとに、モーツァルトが30歳の頃に作曲した全4幕のオペラ(初演は1786年)。18世紀のスペイン・セビリアが舞台の喜劇で登場人物の性格描写に優れた作品として知られ、モーツァルトのオペラの中でも屈指の人気を誇る。ロッシーニのオペラ「セビリアの理髪師」(1775年)の続編となっており、「罪ある母」(1792年)と合わせて「フィガロ三部作」と呼ばれている。

あらすじ アルマヴィーヴァ伯爵の召使いフィガロは、伯爵夫人の小間使いスザンナと今日結婚式を挙げることになっている。しかし、スザンナに気がある伯爵は一度放棄した初夜権の復活を企んでいる。フィガロ、スザンナは夫の冷めゆく愛を嘆いている伯爵夫人と結託して伯爵の鼻を明かそうと計画。小姓ケルビーノにスザンナの衣装で女装させて伯爵をおびき出そうとするが作戦は失敗。一方、フィガロに金を貸している女中頭マルチェリーナは借金返済が無理なら自分と結婚するようフィガロに強要し裁判となる。しかし、裁判の途中でフィガロがマルチェリーナと医師バルトロの子であることが発覚。一転して喜びの再会となる。次に伯爵夫人とスザンナはお互い衣装を換えて、伯爵の浮気現場をおさえようと画策。伯爵はまんまと引っかかり、夫人に平謝りして全員喜びの大団円となる。

第31回 大阪音楽大学学生オペラ
W.A.モーツァルト「フィガロの結婚」
(全4幕・原語(イタリア語)上演・字幕付)

2/15(土)、2/16(日) 両日14:00~
指揮: 森香織、演出: 井原広樹、合唱: 大阪音楽大学合唱団、管弦楽: 大阪音楽大学管弦楽団
場所: ザ・カレッジ・オペラハウス、料金: 一般2000円、シルバー/小・中・高校生: 1000円(全指定席)

舞台にかける思いが花開く 輝き放つ、 キャストたち

憧れの学生オペラの舞台に立つため、
厳しいオーディションを勝ち抜いて
キャストの座をつかんだ学生に、
本番に向けた意気込みを聞きました。

●スザンナ役

乾 彩子 [院2]

スザンナを演じるのは今回が3回目。本や資料、先生方の指導などを通してたくさんの知識と経験を得てきましたが、今一番大事にしていることは自分の中のスザンナ像をいったんリセットして、改めてスザンナという役に向き合うこと。稽古中に井原先生のイメージとのズレを感じたらその都度質問し、ギャップを埋められるように努めています。スザンナは全てのアンサンブルに参加し、常に本筋の展開の中心にいるような存在。機転が利き、強く自立したスザンナに注目していただけただけなら嬉しいです。

●ケルビーノ役

吉本 朱里 [専攻科]

「私が演じるならケルビーノ」——オーディションに向けて、この役を誰にも渡したくないという一心で練習しました。一般的にはかわいらしい、いたずらっ子のイメージがある役ですが、井原先生がイメージするケルビーノは大人っぽく色気のある男性。普段から歌い方やしぐさ、所作が女性っぽくならないように宝塚歌劇団の映像なども参考にしています。本番では、いまだかつてない大人っぽいケルビーノを新鮮な感覚で観てほしいです。

”
過去の経験を
リセット
新たな気持ちで
役に向き合う

Susanna

[スザンナ]

”
人間の食欲さを
ブレずに
表現したい

Il Conte

[伯爵]

”
原作を読み返し、
役への理解を
深める日々

La Contessa

[伯爵夫人]

●伯爵役

難波 孝 [大4]

高校時代に初めて観て憧れた学生オペラの舞台。昨年からキャストとしてオペラハウスで歌わせていただく中で、歌手にとってどのような声が必要なのかを学び、成長させていただけたと感じます。私が演じる伯爵は自分の欲望に純粋でエゴむき出しのキャラクター。人間の食欲さをしっかり表現するため、井原先生とディスカッションしながら私らしい伯爵像を探っているところ。本番でも注目してほしいポイントです。

●伯爵夫人役

岡田 彩菜 [院2]

伯爵夫人は「この人はどういう気持ちでこういうセリフを言っているのか」がつかみにくい役。観ている方に伝わるように私自身ももっと役に対する理解を深めていく必要があると感じています。井原先生が理想とする伯爵夫人像を読み取ることと並行して、原作も読み返して人物像をつかもうと努めています。伯爵に対し不満を抱きながらも最終的には伯爵を愛さずにはられないことに気づく、そうした夫人の恋愛感情に注目してほしいです。



コンミスとして心掛けたいことは？

指揮者とコミュニケーションをとり、 オーケストラを一つにまとめる

コンサートミストレス/インスペクター

太田美咲 [弦楽器専攻(ヴァイオリン演奏家特別コース)・大4]

1 年生の時の学生オペラで「フィガロの結婚」を演奏したのが、初めてのオペラでした。弾き方や周りの音の聞こえ方がステージ上での演奏とはまったく違い、ヴァイオリンの世界が少し広がったような気がしました。

オペラ演奏の難しさは、ピット内からは見えない舞台の進行やキャストの歌に合わせて演奏しなければならないこと。私にとって4回目となる今回の学生オペラは、コンサートミストレスとして指揮者とコミュニ

ケーションをとり、オーケストラ全体を一つにまとめて音を紡ぎ出していくことが大事な役割になると感じています。

3年前に演奏した「フィガロの結婚」とは指揮者も演出家も変わり、私自身もフレッシュな気持ちで本番に臨みます。オーケストラだけで演奏する序曲は多くの方が知っている曲だと思います。大音らしい音に注目していただきたいですし、オーケストラも含めた舞台全体の表情も楽しんでいただきたいです。

演 奏家役としてオペラに出演したことはありますが、ピットに入って演奏するのは今回が初めて。オペラの演奏形態としてベストになるように作られているピット内は思っているように音が飛ばなくなります。奏法にはそれほど違いはありませんが、過去にオペラ演奏を経験した先輩からは「キャストの歌と一体となった演奏には、歌い手とオーケストラの信頼感や連携が大切」とアドバイスしていただきました。演奏者は舞台上が見えない分、どうしても指揮者やコンサートミストレス頼りになってしまうので、チームとしてのオーケストラの連携も必要になると感じています。

オペラは歌唱だけでもオーケストラだけでも成り立ちません。音が出過ぎるのではなく、キャストの歌を引き立てられるような演奏ができれば、オーケストラとしての本望です。本番まで残された時間はわずかしかありませんが、調和のとれた演奏ができるよう、集中して練習に取り組んでいきたいです。

オペラ演奏に必要なことは何ですか？

歌手との信頼感や、 チームとしての オーケストラの連携

サブインスペクター

伊藤瑠菜

[管楽器専攻(ホルン)・大4]



吹 奏楽部に所属していた高校時代、顧問の先生の指揮で音がガラッと変わることによって「将来は指揮者になろう」と決意。大音在学中から指揮者としての活動も始めていましたが、学生オペラの音楽助手の募集を見て「これは面白そうだ」と応募したことがオペラとの出会いでした。

オペラ指揮の難しさは、その日の歌手の体調によって、どのような演奏が歌いやすいのかを見極めること。「本番は生もの」を実感する瞬間です。また、指揮者は「送信」の仕事と言われることが多いのですが、舞台とオーケストラをつなぐオペラ指揮では「受信」も大事。今の音の流れがどう進んでいるのか、歌手が今何を欲しているのかを音で対話しながら感じ取り、一体感のある舞台となることを目指しています。

過去2回指揮をする中で、学生オペラには「今の学生たちにしかできない音楽」があると感じています。キャスト、オーケストラの学生たちは、本当に驚くぐらいの情熱をかけて練習しています。ぜひ、今しか聞けないエネルギーで情熱あふれる舞台を観ていただきたいと思っています。



指揮をするオペラではキャストの立ち稽古にも積極的に足を運ぶ。「演出家が作品に息を吹き込む過程を見て、作曲家が曲に込めた思いと融合させていく作業がオペラ指揮の楽しさだと感じています」

オペラ指揮の醍醐味は何ですか？

歌手と音で対話し、 舞台に一体感をもたらす瞬間

指揮者・講師

森 香織

[大学専攻科作曲専攻(指揮)
1998年度修了]



もう一人の“主役” オペラを支える オーケストラ

舞台下のピットでオペラの進行に合わせて演奏するオーケストラ。キャストの歌を引き立て、演目全体を盛り上げる重要な役割です。



**1年生から
専攻科生まで、
約20人の合唱で
舞台に華を添えます**

香川 梨佳 [大4] >>合唱インスペクター

①学生と先生のつなぎ役。先生からの指摘や連絡事項を伝える役目です ②練習の中で気づいた点や工夫点を見つけ出し、稽古を進めることが求められるため、とても勉強になります ③大学生活で一番大きなオペラ。いつか私もキャストとして舞台に立ちたいと思っています ④日々のレッスンで歌唱技術を磨き、アリアだけでなく全幕勉強することを心掛けています ⑤1年生から専攻科生まで、約20人で盛り上げる合唱にもぜひ注目を!



**本番までの
緻密な調整が
大事な仕事
舞台を彩る映像に
注目してください!**

有賀 明美 [大2] >>映像

①舞台に映す映像を照明キューに合わせてパソコンで操作します。本番までの綿密な調整が重要な仕事です ②裏方として先輩方の稽古や本番に参加できるのは貴重な機会。井原先生の演出も勉強したいです ③あこがれの舞台 ④荒田祐子先生のレッスンの他に、オペラ研究部やTuttiなどにも参加して勉強しています ⑤素晴らしい先輩方の声が聴けることを私も今から楽しみにしています。映像も頑張りますので、ぜひお楽しみください!



**キャストと裏方が
一体となり、
最高の学生オペラを
作り上げたい**

平岩 蘭 [大3] >>照明

①照明を操作する方の横で楽譜を追いながら、タイミングを指示する仕事です ②集中力と音楽への理解が求められるため、とにかく楽譜と向き合うことを心掛けています ③「いつかは私も」と憧れている舞台 ④台詞の裏の意味まで理解できるよう、1年生からオペラ研究部に所属して勉強しています ⑤オペラは舞台上のキャストと舞台を支える裏方がひとつになって作り上げるもの。裏方の一員として、自分の役割を精いっぱい努めます!

学生オペラを陰で支える キャストと ともに、 舞台を作る。

合唱や裏方として学生オペラを支える皆さんに、仕事内容や本番に向けて取り組んでいることなどを聞きました。

- ①担当する役割について教えてください。
- ②役割を通して学んでいること、学びたいことは?
- ③あなたにとって「学生オペラ」とは?
- ④「学生オペラ」に向けて、これまで力を入れてきたことは?
- ⑤「フィガロの結婚」成功に向け、抱負や注目点をお願いします!



**ストレスなく読める
字幕を目指して、
楽譜を徹底的に
読み込んでいます**

柳瀬 菜央 [大3] >>字幕

①原語で展開する歌や台詞に合わせて、舞台の両脇に日本語字幕を映します。キャストの独唱にピッタリ合った字幕が腕の見せどころです ②字幕の日本語表現を学びたいです。どのように表現されるのかワクワクしています ③歴史の重みを感じる舞台 ④字幕を担当する個所が舞台の進行とずれないように、音楽を頭に叩き込んでいます ⑤昨年に続いて2回目の担当です。観客の皆さんにストレスなく観ていただけるよう、字幕操作を頑張ります!



**キャストが集中して
本番に臨めるよう
全力でサポートします**

青木 愛永 [大3] >>舞台監督補助

①8人いる舞台監督補助のチーフを担当。舞台の準備や場面転換、小道具の制作管理もします ②昨年と同じ仕事を経験し、裏方の大切さを知りました。本番まで短い期間ですが多くのことを吸収したいと思います ③表舞台と裏方、両方を経験できる貴重な機会 ④歌唱技術を磨くだけでなく、裏方を経験することでも間接的に勉強しています ⑤キャストが集中して本番を迎えられるよう、微力ながらサポートできればと思います



**キャストの
衣裳全般をサポート
舞台に送り出す
瞬間がやりがい**

米田 祥子 [大3] >>衣裳

①衣裳の手直しやしわ取り、早替えといったキャストの衣裳全般をサポート。キャストを舞台に送り出す瞬間にやりがいを感じます ②過去のDVDを衣裳の視点で見ると、さばきや着こなしなど新たな発見が多く、勉強になっています ③いつかは立ってみたい、あこがれの舞台 ④先生方や先輩方の発声、立ち姿、集中力など粘り強く吸収するように努めています ⑤キャストに安全・快適な衣裳を着ていただけるよう、気を引き締めて頑張ります!



**指揮者の思いを
肌で感じ、
より良い音楽を
届けます**

辻本 令菜 [大3] >>音楽

①キャストやオーケストラに対する指揮者の指摘を楽譜に書き込み、稽古終了後に伝達する役目です ②指揮の仕方、呼吸の仕方を学びたい ③昨年は字幕、今年は音楽と裏方の大切さを学んでいます。来年はキャストとして舞台に立ちたいです ④表現力もですが、キャストは歌を届けることが最も大切。今後は息の使い方やカデンツァなどの歌唱技術を磨きたいです ⑤より良い舞台に貢献できるよう頑張ります!

02



飯森範親氏指揮で荘厳に
大阪音楽大学 第62回定期演奏会

12月6日(金)ザ・シンフォニーホールで、第62回大阪音楽大学定期演奏会が開催されました。今回指揮を務めたのは、これまでに国内外で数多くのオーケストラの指揮などを歴任し、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団名誉指揮者でもある飯森範親氏。J.ラター「マニフィカート」、G.マーラー「交響曲第1番 二長調『巨人』」の2曲を演奏しました。古くから「マリアの賛歌」として知られている「マニフィカート」では、石橋栄実教授の丸くやわらかで芯のある歌声が聖母マリアを思わせ、管弦楽の繊細な演奏がソプラノと合唱団のかけ合いに心地よく溶け込み、会場に神聖な空気が漂っていました。続く、マーラーの「交響曲第1番 二長調『巨人』」は細やかな表現と色鮮やかな音色で奏でられ、観客は壮大な世界観に引かれるように聴き入っている様子でした。演奏会の最後に、観客からは、素晴らしい演奏をたたえた惜しみない拍手が贈られました。

03

NEW RELEASE

大音関係者がリリースしたCD・本・楽譜など。



〈ピアノデュオ生声〉
田中弥生、山本寿美子
(87年度大卒・ピアノ)
ラフ 旅の情景 Op.160
2200円(税込)
ウッドノート・スタジオ
Amazon、タワーレコード、HMV、
全国主要CD店

04

キラリ★輝く大音の星

各種コンクールで受賞された皆さん。



貝塚 理江
(11年度大卒・ユーフォニアム)
第34回 Leonard Falcone
国際コンペティション
ユーフォニアム
アーティスト部門
第1位
▶2019年8月13日
Blue lake fine arts camp
(U.S.A)



市川 明日香
(大2・ピアノ)
第22回「長江杯」
国際音楽コンクール
ピアノ部門
大学の部
第3位
▶2019年8月22日
ピッコロシアター



足立 悠紀
(12年度大卒・声楽)
第9回 AMAピアノと
歌と管弦のコンクール
声楽自由曲部門
Gヴィルトゥオーゾの部
金賞およびグランドプリ
▶2019年8月31日
びわ湖ホール 小ホール



田野 萌子
(大2・ピアノ演奏家特別)
第43回 ビティナ・ピアノ
コンペティション
グランミューズ部門
Yカテゴリー
第3位
▶2019年8月17日
王子ホール



加古 彩子
(大1・ピアノ演奏家特別)
第43回
ビティナ・ピアノ
コンペティション
G級
銀賞
▶2019年8月23日
第一生命ホール



宮口 愛
(14年度短専修・ピアノ)
第9回 AMAピアノと
歌と管弦のコンクール
ピアノ自由曲部門
Gヴィルトゥオーゾの部
銀賞
▶2019年8月31日
びわ湖ホール 小ホール

01



関西の名門3校による奇跡の舞台。ドリームコーラスコンサートを開催

ミュージックコミュニケーション専攻がイベント企画運営を務めた「阪急宝塚線ミュージック駅伝MOT!」のイベントの目玉企画「ドリームコーラスコンサート」が、11月30日(土)にザ・カレッジ・オペラハウスで開催されました。関西を代表する音楽の名門である関西学院グリークラブ、宝塚音楽学校(106期本科生)、大阪音楽大学が集結したこのコンサートは、3校がそれぞれの校歌を歌唱するエール交歓で幕を開けました。第1ステージでは、関西学院グリークラブが代々受け継がれてきた「メンタルハーモニー」を重厚感たっぷりに響かせ、続く第2ステージでは、宝塚音楽学校が華麗な歌声で観客を魅了しました。第3ステージは再び関西学院グリークラ

ブが登場し、「バーバershoppスタイル」の楽曲を披露。また、その起源について、歌唱を交えて再現するシーンもありました。昨年映画でも話題となった、ロックバンド「クイーン」の名曲「ボヘミアン・ラプソディ」ではヴォイスパーカッションにも挑戦し、緻密で繊細、かつ、迫力のある演奏で会場を沸かせ、「アラジンメドレー」ではミュージカル風に展開するなど、バラエティーに富んだ演出の数々に、観客は熱い拍手を送りました。宝塚音楽学校による歌と踊りの第4ステージでは、男役と娘役で衣装を変え、ジャズの名曲「Take Five」など6曲をパフォーマンス。「ショーほど素敵な商売はない」では、客席に降りて観客のすぐそばで踊るサプライズ演出もあり、会場は歓喜の色で満たされました。気品のある身のこなしから、校訓である「清

く正しく美しく」の姿勢が随所に感じられる美しいステージとなりました。第5ステージの本学による「マニフィカート」は、管弦楽を伴った大規模な混声合唱。ソプラノの気高い歌声と合唱団の絶妙なハーモニー、オーケストラのきらびやかな音色で会場を包み込みました。フィナーレでは宝塚市にゆかりのある漫画家、手塚治虫の代表作から「鉄腕アトム」を3校合同で演奏しました。本学作曲専攻4年の山田大貴さんがオーケストラ編曲を担当し、この日が初演。3校が1コーラスずつ歌い継ぐ様子は「阪急宝塚線ミュージック駅伝MOT!」の参加企画らしく、まさに音楽のリレーのようでした。2時間半に渡って行われた奇跡のコーラスコンサートは、拍手喝采のうちに幕を下ろしました。



宝塚音楽学校



関西学院グリークラブ



大阪音楽大学